



平成30年12月15日  
第816号

一般財団法人日本遺族会  
〒100-0001 東京都千代田区九段南一丁目六番三階  
千代田会館三階  
電話 03-3261-5521  
00160-6-25389  
電報掛 00160-6-25389  
編集 毎月1回15日発行  
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

# 31年度 政府予算 本会の要望実現に向けて 今後の運動方針を決定

平成三十一年度政府予算の編成時期を迎え本会では、今後の運動方針等を決定し、山積する諸問題解決のため、十二月十三日に遺族協議員協議会総会での陳情を経て同月十四日、全国戦没者遺族大会を開催し、財務大臣、総務大臣、厚生労働大臣をはじめ関係省庁、自民党所属国会議員への陳情運動を行う。

十二月を迎え、安倍晋三内閣は平成三十一年度政府予算の編成作業に着手した。本会では、概算要求がなされてはいるが、緊縮財政下で一段と厳しさが増す中での年末の予算編成に向けて、政府に対して戦没者遺族が

おかれている現状の理解を得るため、十二月十四日、第七十四回全国戦没者遺族大会を開催することを決定している。また、大会前日の十三日には、遺族協議員協議会(会長・尾辻秀久参議院議員)と元本会会長の総会が参議院議員会館会議室で開催され、日本遺族会を代表して水落敏栄会長(参議院議員)が平



常務理事会で本会の要望事項実現に向けて挨拶する水落敏栄会長=11月12日、千代田会館で

成三十一年度政府予算に対する戦没者遺族の処遇改善等に関する本会の要望を表明し、出席した自民党所属国会議員、総務省、厚生労働省の関係省庁に要望事項の実現に向けて協力を要請した。この会議には水落会長をはじめ副会長、専務理事、常務理事らが出席し、自民党所属国会議員(氏名は新年一月号に掲載)に陳情した。本会の主な要望事項は、公務扶助料、特別扶助料等の支給率格差の是正や特別用慰金の受給要件の緩和。また、戦没者遺児による慰霊友好親善事業の充実や、遺骨収集事業等の拡充強化、さらには、全国戦没者追悼式への国費参列者の増員並びに旅費算定の見直し等についてである。

全国戦没者遺族大会終了後は各都道府県遺族代表が議員会館、自民党本部に赴き、それぞれ地元選出の自民党所属国会議員に面会し、本会の要望事項の実現に向けて理解と協力を求める陳情運動を総力を挙げて行う。

## 第63回 奉納菊花展

靖国神社にて開催

靖国神社において第六十三回奉納菊花展が十月十六日から十一月五日にかけて開催された。十一月二十七日には、靖国会館において奉納菊花展の表彰式が行われ、次の作品に日本遺族会会

## 女性部 合同研修会を開催

真剣かつ真摯な討議行う

十一月二十四日、東京文京区の東京ガーデンパレスにおいて女性部から六十三人、青年部からは戦没者の孫、ひ孫、甥、姪ら六十一人、オプザーバーなどを含め百三十四人が相集い、日本遺族会女性部・青年部合同研修会が開催された。

研修会は午前十時、岩村誠青年部幹事が進行し、百田節子女性部副部長の開会の辞で始まった。最初に水落敏栄会長が「会を運営するには、目的をしっかりと持っていたら

## 謹 哀悼



長賞が贈られた。宝幸友愛 東 幸子 富士の輝 古田 宏 聖光白峰 福田敬一 益景 村の神社 吉川敏雄 (順不同 敬称略)

榎垣 正氏 日本遺族会顧問、元参議院議員。十二月九日、逝去された。九十四歳。葬儀は東京・江戸川区の国柱会で行われた。喪主は長男賢一氏。



石井順二郎氏 日本遺族会常務理事・佐賀県遺族会会長。

十一月二十二日、逝去された。八十九歳。葬儀は、多摩市のメモリアル会館・和光で行われた。喪主は長男高田氏。



女性部・青年部合同研修会で挨拶する宇田川雄副会長=11月24日、東京ガーデンパレスで

午後三時からそれぞれ別の研修討議を受けての全体会議が開かれ、女性部は「青年部を育成し、女性部の将来を託せる土壌を作ること」を努めるとし、今後、行動していくことが報告された。青年部からは「遺骨収集、慰霊巡拝への参加や、フェイスブックのグループ結成等、出来ることから行動に移すことが大事だ」と確認したと報告した。

## 声なき声

木枯らしが吹かないまま12月に入り、初雪や初氷の知らせも遅く、暖かな師走を迎えた。明治から150年、大正・昭和・平成とつながり、来年5月には新しい元号となる。ふと平成最後の年の瀬を前に思いを馳せ、遠い記憶を辿ったりしている。▼そんな中「平和維持する責任」という見出しが目に入った。「読売中高生新聞」で平成の次の時代どんな価値観を大切にしようかという質問に「40の言葉」の中で圧倒的1位になったのが「平和」という。2万1千人中8623人。戦争経験者が少なくなっている中、平和維持は簡単ではない。経験者が必死に伝えてきた努力が水の泡にならないように。この次世代に語りつぐ責任と決意の現れか。2位「安全」3位「安心」にも自然災害の恐ろしさや備えの大切さ、いじめや虐待をなくす事など人の命を守ろうとする共通点が見て取れる。心細さは否めないが、10代のたかさんのやさしさに心が和んだ所である▼経済人らで作る「天皇陛下御即位30年奉祝委員会」が設立され、御結婚60年を迎える来年4月10日に超党派の国会議員連盟と共催で「感謝の集い」を。また秋には皇居前広場で新しい天皇の即位を祝う「国民祭典」を開く事が決まった▼来年が国民がこぞってこほぐ機運が高まるように、そしてあの10代の中高生のようにたくさんのやさしさに包まれる年でありませうと願う。(A)

未来へつなぐ 靖國の心  
—平成31年 靖國神社御創立150年—  
**初詣は靖國神社へ**  
御本殿にて参拝しましょう  
◎主な催し 新春福引き・全国神社奉納絵馬展・振舞い酒・甘酒(無料)  
靖國神社社務所 電話 03-3261-8326 詳しくは 靖國神社

# トラック諸島で5柱を収容 樺太・占守島 厚生労働省で拝礼式挙行

JARRWC

日本戦没者遺骨収集推進協会(JARRWC)は、トラック諸島戦没者遺骨収集緊急派遣、樺太・占守島戦没者遺骨収集派遣を実施し、本会からはトラック諸島に一人、樺太・占守島には二人が派遣協力した。現地では収容した遺骨は日本へと奉還され、厚生労働省で、議室でそれぞれ拝礼式が執り行われ、水落敏栄本会会長が参列し祭壇に献花した。



トラック諸島で収容した遺骨が奉還され、献花する水落敏栄本会会長=11月8日、厚生労働省で

## トラック諸島

トラック諸島戦没者遺骨収集緊急派遣団は、ミクロネシア連邦チューク州モエン島西南西沖で沈没した神国丸から発見された遺骨を収容することを目的とし、十月三十日から十一月八日の期間で任務にあたった。派遣団は、在ミクロネシア日本国大使館、ミクロネシア連邦外務省、チューク州政府等の関係

機関と協議し、事業への理解と協力を求めた。

十一月三日、神国丸沈没現場で遺骨の確認をするため、現地ダイバー二人が潜水し、船尾エンジンルームを中心に捜索して二箇所遺骨を発見し、翌四日は、発見した遺骨を収容するために再度潜水し、遺骨二柱を収容した。

七日、派遣団は、収容した遺骨をDNA鑑定のため未焼骨のまま送還した。二日の期間で調査し、本会からはアンガウル島班に派遣協力した。ペリリュー島では、中央高地、北部高地、ホワイトビーチ周辺並びにサウストック東側で調査を行った。アンガウル島では、第二次派遣で判明した集団埋葬地「サイパン日本人墓地」を試掘し、七柱(推定)の遺骨を確認した。

マリアナ諸島現地調査第四次派遣には、十一月一日から十一日の期間で派遣協力し、グアム島で調査を行った。今回は、南太平洋戦没者慰霊公苑慰霊塔の下にある「納骨堂」を調査し三柱(推定)を発見した。また、推進協会の取得及び情報提供者への聞き取りを行った結果、ジーゴ地区リーストラックで二柱(推定)を確認した。

インド現地調査第一次派遣は、十月十四日から三十日の期間でマニラ州インバール地区及びナガランド州コヒマ地区で調査が実施され、ポスター、パンフレットを配布して現地住民等へ事業を周知し、遺骨情報の提供を求めた。

ミャンマー現地調査第一次派遣は、十一月二日から十月二十九日から十一月九日まで実施され、一班はサガイン管区ホマリン地区及びタム地区に



シタンでの埋葬地調査で試掘を実施=ミャンマーで

し、成田空港で厚生労働省へと引き渡した。樺太・占守島戦没者遺骨収集派遣団は、十一月十日

三日から二十二日の期間で、ロシア連邦サハリン州スミルヌイフ地区において、現地関係団体が発掘した遺骨の受領に努めた。派遣団は、十一月十六

日、ピオネール基金がスミルヌイフ地区で発掘した遺骨二柱について、遺骨鑑定人が日本戦没者の遺骨であることを確認し、受領した。また、当初受領予定であったロシア調査運動が占守島で発掘した遺骨四柱は、遺骨を輸送する船が故障したため、今回は受領できなかった。

十八日、受領した遺骨を焼骨し、追悼式を挙行した派遣団は、二十一日、遺骨を奉持して帰国し、成田空港で厚生労働省へ引き渡した。

地権者等に面会して事業内容を説明し、協力を依頼した。また在マニラ日本国大使館から提供された遺骨情報等に基づき、十五カ所の埋葬地を調査し、八カ所で遺骨を発見した。

ビスマーク・ソロモン諸島第四次現地調査では、十一月十四日から二十八日の期間でソロモン諸島に派遣し、日本軍の捕虜収容所が在ったピエズ島及びマササ島の埋葬地で現地人の協力を得て掘削した結果、ピエズ島で三十一柱(推定)、マササ島で十二柱(推定)を収容した。また、ガダルカナル島では、ラジオを通じて事業を周知し、現地住民が発見した遺骨百柱(推定)を受領した。

## 時局に思う

日本遺族会会長  
参議院議員  
水落敏栄



過日、別冊正論の鼎談(テーマ「天皇陛下の御親拝に向けて」)をお受けしました。理由は、日本遺族会会長として、天皇

陛下の御親拝に対しての考えを広くお知らせしたかったからであります。私の考えは、天皇陛下のご親拝を願う前に、私たちがまずやらなければならぬのは、環境整備であるということです。それは、多くの国民が、英霊に感謝し、靖国神社に親しく参拝する環境を整えるということです。その上で、私たちができることは、二つ。

一つは、靖国神社の成り立ちや、今日の我が国の平和と繁栄は、祖国の安寧を願い、尊い生命を犠牲にされた多くの英霊

の平和の礎の上になりたっていることを、広く国民に周知させ、参拝を促すこと。

二つは、国民の代表たる国会議員にも同様の働き掛けをし、参拝者を増やすこと。

多くの国民、国会議員が参拝するということが、靖国神社ならびに、英霊顕彰を理解した表れであり、ひいては、総理閣僚の靖国神社参拝につながることは明らかであります。

遺族会は、活動の根幹である英霊顕彰の基本として、国会議員をはじめ、総理・閣僚の靖国神社参拝、道府県知事による護国神社への参拝を促すこと。こうした遺族の声、世論に加え、戦中戦後を体験した議員が結束し、昭和五十六年三月、一切の立場を超え、国政に携わる者が率先し、靖国神社を参拝し、英霊に尊崇感謝の誠をささげようという趣旨のもと、「みんな参拝しよう」という呼びかけで靖国神社に参拝する国会議員の会」が衆参二百五十九人の議員が参加し、同年四月の春季例大祭で百九十七人の議員が

参列し、以降、靖国神社参拝に対する報道の過熱とは裏腹に、春秋例大祭の八月の終戦の日にも同会が参拝することは定着化しました。

しかし、年月の経過と共に、参拝者数は減り続け、平成二十五年自民党が政権に復帰した年に二百人以上の参拝者を記録した以降は、百五十人前後を推移しており、これが大変憂慮すべき事態です。

戦後七十二年が経過し、戦後生まれが八割を超え、国会においても戦中世代がいまやパーセ

参列し、以降、靖国神社参拝に対する報道の過熱とは裏腹に、春秋例大祭の八月の終戦の日にも同会が参拝することは定着化しました。

しかし、年月の経過と共に、参拝者数は減り続け、平成二十五年自民党が政権に復帰した年に二百人以上の参拝者を記録した以降は、百五十人前後を推移しており、これが大変憂慮すべき事態です。

戦後七十二年が経過し、戦後生まれが八割を超え、国会においても戦中世代がいまやパーセ

参列し、以降、靖国神社参拝に対する報道の過熱とは裏腹に、春秋例大祭の八月の終戦の日にも同会が参拝することは定着化しました。

しかし、年月の経過と共に、参拝者数は減り続け、平成二十五年自民党が政権に復帰した年に二百人以上の参拝者を記録した以降は、百五十人前後を推移しており、これが大変憂慮すべき事態です。

戦後七十二年が経過し、戦後生まれが八割を超え、国会においても戦中世代がいまやパーセ

参列し、以降、靖国神社参拝に対する報道の過熱とは裏腹に、春秋例大祭の八月の終戦の日にも同会が参拝することは定着化しました。

しかし、年月の経過と共に、参拝者数は減り続け、平成二十五年自民党が政権に復帰した年に二百人以上の参拝者を記録した以降は、百五十人前後を推移しており、これが大変憂慮すべき事態です。

戦後七十二年が経過し、戦後生まれが八割を超え、国会においても戦中世代がいまやパーセ

参列し、以降、靖国神社参拝に対する報道の過熱とは裏腹に、春秋例大祭の八月の終戦の日にも同会が参拝することは定着化しました。

しかし、年月の経過と共に、参拝者数は減り続け、平成二十五年自民党が政権に復帰した年に二百人以上の参拝者を記録した以降は、百五十人前後を推移しており、これが大変憂慮すべき事態です。

戦後七十二年が経過し、戦後生まれが八割を超え、国会においても戦中世代がいまやパーセ

参列し、以降、靖国神社参拝に対する報道の過熱とは裏腹に、春秋例大祭の八月の終戦の日にも同会が参拝することは定着化しました。

しかし、年月の経過と共に、参拝者数は減り続け、平成二十五年自民党が政権に復帰した年に二百人以上の参拝者を記録した以降は、百五十人前後を推移しており、これが大変憂慮すべき事態です。

戦後七十二年が経過し、戦後生まれが八割を超え、国会においても戦中世代がいまやパーセ

参列し、以降、靖国神社参拝に対する報道の過熱とは裏腹に、春秋例大祭の八月の終戦の日にも同会が参拝することは定着化しました。

しかし、年月の経過と共に、参拝者数は減り続け、平成二十五年自民党が政権に復帰した年に二百人以上の参拝者を記録した以降は、百五十人前後を推移しており、これが大変憂慮すべき事態です。

戦後七十二年が経過し、戦後生まれが八割を超え、国会においても戦中世代がいまやパーセ

参列し、以降、靖国神社参拝に対する報道の過熱とは裏腹に、春秋例大祭の八月の終戦の日にも同会が参拝することは定着化しました。

しかし、年月の経過と共に、参拝者数は減り続け、平成二十五年自民党が政権に復帰した年に二百人以上の参拝者を記録した以降は、百五十人前後を推移しており、これが大変憂慮すべき事態です。

戦後七十二年が経過し、戦後生まれが八割を超え、国会においても戦中世代がいまやパーセ

参列し、以降、靖国神社参拝に対する報道の過熱とは裏腹に、春秋例大祭の八月の終戦の日にも同会が参拝することは定着化しました。

しかし、年月の経過と共に、参拝者数は減り続け、平成二十五年自民党が政権に復帰した年に二百人以上の参拝者を記録した以降は、百五十人前後を推移しており、これが大変憂慮すべき事態です。

戦後七十二年が経過し、戦後生まれが八割を超え、国会においても戦中世代がいまやパーセ

参列し、以降、靖国神社参拝に対する報道の過熱とは裏腹に、春秋例大祭の八月の終戦の日にも同会が参拝することは定着化しました。

しかし、年月の経過と共に、参拝者数は減り続け、平成二十五年自民党が政権に復帰した年に二百人以上の参拝者を記録した以降は、百五十人前後を推移しており、これが大変憂慮すべき事態です。

戦後七十二年が経過し、戦後生まれが八割を超え、国会においても戦中世代がいまやパーセ

本会の諸会議  
本会で12月13日以降、開催した各種会議は次の通り。

▼事務局長打合せ会  
12月13日 第74回全国戦没者遺族大会の運営等について。



現地住民の協力でピエズ島の集団埋葬地で遺骨を収容=ソロモン諸島で

# 一般財団法人 日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、英霊顕彰や遺族支援など様々な活動のために賛助金を募っております。本会は、これまで英霊の顕彰並びに戦没者遺族の福祉増進をはかるため、日々活動を行ってきたところでございますが、東日本大震災により収益部門であった九段会館が閉館したことに伴い、現在、慰霊友好親善事業をはじめ遺骨収集帰還等各種事業の継続が大変厳しい状況にあります。本会といたしましては、各種事業を行うにあたり、今後とも努力していくことは勿論のことですが、戦没者ご遺族並びに本紙ご購読者、本会の諸事業にご賛同される皆様方より一層のご支援・ご協力を仰がなければなりません。本会の活動の趣旨にご理解を賜り、何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。大変恐縮ですが、ご賛同いただいた方の氏名を本紙に掲載し、お礼に代えさせていただきます。

## 賛助金のお振込みは

●郵便振替 00130-2-694929 ●みずほ銀行 九段支店 普通預金 0980930

口座名はいずれも「一般財団法人日本遺族会：ザイ）ニホンイソクカイ

※賛助金につきましては、誠に勝手ではございますが、お一人様1万円程度からお願いしております。

※ご不明な点は本会事務局(電話03-3261-5521)までお問い合わせ願います

## 慰霊友好親善訪問

# 亡き父たちと語り合う フィリピン及びソロモンで

日本遺族会では十一月、厚生労働省より補助を受けて実施している「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」のフィリピン地域、ソロモン諸島地域をそれぞれ実施した。両地域で九十三人の遺児が亡き父たちの眠る地を訪れ、心ゆくまでの慰霊追悼を行うとともに、植林活動や小学校を訪問し学用品等を寄贈するなど、友好親善に努めた。

### フィリピン

宇田川勲雄本会副会長(東京都遺族連合会会長)を総括団長とするフィリピン慰霊友好親善訪問団(全国の遺児代表八十五人)は十一月二日、東京靖国会館に集合し結団式を行うとともに、靖国神社で旅の安全を祈願した。

翌朝フィリピンへ向け出発し、マニラ到着後はそれぞれ緑の地へと向かった。A班はテレサ、タナイ、シニロアン、マリキナ、モンタルバン、ボソボソ、マニラ港(埠頭内)、マニラ市内(オーシャンパーク内)、イポで、B班はシニロアン、ボソボソ、モンタルバン、ハゴノイ、ルセナ、バタンガスで、C班はクラーク、タルラック、ボンドック道、イリサン、サンタクルス、マシロックで、D班はバレット、パンバ

ン、バヨンボン、オリオン、キャンガン、バナウエで、E班はバナイ島イロイロ方面、ナソ岬方面海岸、セブ島セブ、レイテ島オルモック港(埠頭)、マハラング、カナシガ、パロ、ドラッグ海岸、ブラウエン旧飛行場跡で、それぞれ慰霊祭を行い、亡き父へ積年の想いを存分に語りかけた。また、友好親善事業では、各班、訪問先の小学校でサッカーボールや団員が持ち寄った学用品・衣類等を贈呈し、子供たちと交流し心を和ませた。



サンマテオクリニックを訪問し車椅子を寄贈  
=11月7日、マニラ郊外で

さらに、病院を訪問し車椅子を寄贈して現地の方々との友好親善を図った。八日、カリヤの「比島戦没者の碑」前において全戦没者追悼式を挙行し、散華された英霊に感謝と追悼の誠を捧げた。そして、同夜は日本国大使館代表等招いて懇談会を開催した。

都島の遺児代表八人が東京・靖国会館に集合し結団式を行い、靖国神社で旅の安全を祈願し昇殿参拝を行った。同夜成田空港を出発し翌朝オーストラリア・ブリスベンを経由して、ソロモン諸島の首都、ガダルカナル島のホニアラに歩を印した。

二十三日にはマタニカウ川、コカンボナ、ママラ川で慰霊祭を行い、祭壇に故郷から持参した品々を供えて亡き父に語りかけ、午後はニュージョージア島のムンダに移動。二十四日朝、ホテル前で海を望み個人慰霊祭を執り行い、亡き父たちの冥福を祈った。小型ボート

を借り上げ、スコールと波しぶきの中をコロバンガラ島方面へ。波の穏やかな海上で艦と運命を共にした父上をはじめ、ご英霊に花やお酒を手向けた。午後には激戦の地となった三角山で積年の思いを語りかけ、懇ろに申した。

二十六日、アウステン山の戦没者慰霊碑で在ソロモン日本国大使館代表の参列のもと、全戦没者追悼式を挙行し哀悼の誠を捧げた。同夜にはセントニコラス小学校教師、児童を招いて懇談会を開催し、交流を深めるなど、所期の目的を果たした一行は、二十八日無事帰国の途についた。

ホテル前で海を望んで亡き父上に語りかける団員  
=11月24日、ムンダで

## 慰霊友好親善事業 参加者募集

募集要項は次のとおり  
▼時期及び地域 実施概要参照。  
▼参加費 10万円  
※東京等に集合し、結

団式及び渡航に係る説明会を行う。なお、集合場所まで及び解散場所からの交通機関はご自身の手配となる。また、移動に係る国内交通費及び帰国時の宿泊代、渡航手続手数料等は個人負担となる。

▼参加資格 戦没者の遺児。平成二十九年度参加者を除き、複数回の応募が出来る。  
▼申込方法 在住する各都道府県遺族会事務局へ参加者の資格審査に当

たり、申込書の記入項目の全てに記入を要するのので、事前に申込用紙を取り寄せていただき、記入項目に不明な点(戦没者の部隊名等)があれば各遺族会に相談し条件を満たしたうえで提出願いたい。なお、申込多数の場合は選考となる。

また、巡拝地域や実施時期等は、相手国や交通機関等の事情で変更、延期または中止となる場合があるため、予めご了承

願いたい。  
※参加者の高齢化を考慮し、今年度より看護師が同行する。

## 本会への 賛助金のお礼

本紙(同面)でもお願ひしている本会への賛助金につきまして、ご賛同いただきました左記の方々に対し、お礼申し上げます。

なお、大変恐縮ではございますが都道府県名に賛助者名(敬称略・カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等)

荒田薫、森川真、山本善太郎、佐々木時治、山城泰子、石井征樹、恩村政雄、高倉正達、中村道子、坂本亮一、山岸不光、別府始、岡崎翠、伊藤功、中岡敦子、新野田慶一、花田淳司、水越克博、遠藤壽美子、丹原輝彦、柳

美、荒田俊弘、坂中宣勝、山口俊一郎、志村明、仲田美千子、大山祐一、上岡芳子、岡田克子、田中啓子、齋藤定子、高浪之雄、東義信、横山善久、常岡梅男、田中頼彦、得居啓子、安田重幸、こがね、喜多村甫、大木重美、城泰子、佐々木時治、山岸不昭、石井征樹、恩村政雄、高倉正達、中村道子、坂本亮一、山岸不光、別府始、岡崎翠、伊藤功、中岡敦子、新野田慶一、花田淳司、水越克博、遠藤壽美子、丹原輝彦、柳

川美津江、伊藤要、遠藤澄夫、土田優子、田坂ますみ、佐藤瑞美子、長江貞子、奥広重行、峯岸光代、野津絃子、佐藤忠中村きみ子、タナカマサコ、スギモトマサシ、ハヤシツネコ、フジワラカズヒコ(以上、十一月一日から十一月末日まで)

皆様からいただきました賛助金は、本会が実施する各種慰霊事業などの活動費用に利用させていただきます。誠にありがとうございます。

## 実施概要

(広域地域)	実施地域	実施時期	募集人員	申込締切	
1	フィリピン(2次)	平成31年 3月13日~3月20日	120人	1月11日	
2	中国	平成31年 3月22日~3月30日	80人	1月22日	
(特定地域)	3	ミャンマー	平成31年 2月26日~3月6日	36人	12月21日

## 本会事業参加者の皆様へ

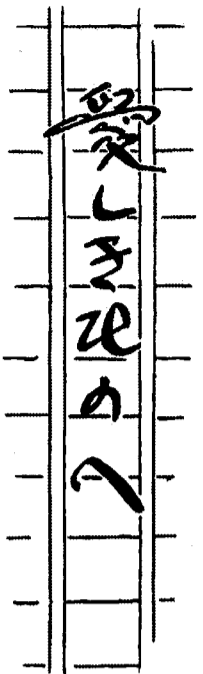
本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報(個人情報保護法)の定めにより、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

# 巡回特別企画展を開催 香川県で二、三八六人が来場

## 昭和館

昭和館が毎年実施している巡回特別企画展「戦中・戦後のくらし香川展」が、十一月十日から二十三日まで高松市の市民交流プラザIKODE瓦町大会議室（瓦町FLA G8階）で開催された。この展覧会では、開催地の香川県に因連する実物資料・写真・映像等が展示され、一万一千人を超える入場者で賑わいをみせた。

東京都の九段下にある一示された。昭和中の来場者は県内から巡回特別企画展を開催している。三十四回目の開催となった今回の企画展では、香川県に因連する資料約二〇〇点を含めて準備した千人針や、



俺は元気で征く

陸軍大尉 瀬川 正俊

昭和十九年十二月七日  
フィリピン、オルモック湾にて戦死  
大阪府大阪市福島区大野町出身 二十一歳

兄上様、正俊は帝国軍人として、最後の名誉を  
与へられました。誓つてやります。  
母上様、二十一星霜のご訓育は無駄ではありま  
せんでした。くれぐれもお大事に。  
正子姉さん、母上をお願ひします。  
植木の兄上姉上、元気で頑張れ。  
叔父様お世話になりました。ご奮闘下さい。  
(中略)  
巨君よ日本男児は、常に腹と體を錬れ。  
如何なることも断じて貫け、俺は元気で征く。

最後に一首  
米英の夷は如何に驕るとも  
なんぞ敵なる八紘一字に

【平成三十年十二月靖国神社頭掲示】  
愛しきものへ

場者の注目を集めていた。また、県内に住む遺族の方々の遺骨収集や慰霊友好親善などの活動紹介や、県内在住の遺族の方々の戦中から戦後にかけての労苦を語る証言映像も会場で大映された。地元で多くの注目を浴び、NHKや地元新聞など様々なメディアにて紹介され、幅広い年代が会場を訪れた。今回の香川展では東京都の新宿にある平和祈念都の祈念館（総務局長が隣接のギャラリーを中心に「平和祈念展 in 高松」が同時開催された。問い合わせ先：昭和館 学芸部〇三三三三二二二五七七）

## 2県で遺留品が返還 OBONソサエティ



昭和中の来場者は県内から巡回特別企画展を開催している。三十四回目の開催となった今回の企画展では、香川県に因連する資料約二〇〇点を含めて準備した千人針や、

山口県では、昭和二十一年に硫黄島で戦死した周南市出身の角行夫氏の遺留品を山口県遺族連盟が調査し、甥の正則さんが田布施町に在住していることが判明した。遺留品は、ミネソタ州在住のステイブン・ジークさんの父親（元海軍航空隊乗務員）が戦地空を朱に染むる夕日と海底に眠る英霊たちを照らせ

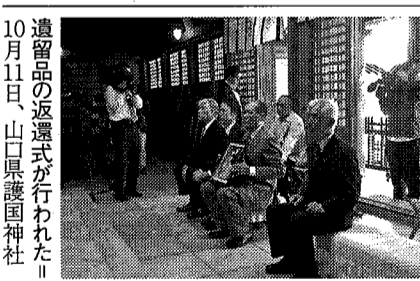
購読者の皆様へ  
日本遺族通信第817号（1月号）は、行事の都合により発行日から若干遅れて発送させていただきます。ご迷惑をおかけいたしますが何卒、ご了承くださいませ。日本遺族通信編集係

## 九段短歌

選者 安元 百合子  
富士吉田市 荻沼 勝田  
静かなる海の音波の音聞こえる紺碧の表紙の父の慰霊誌  
武蔵沈み残る島海雷撃沈乗員移乗させ一人艦に残りし  
と  
フィリピンの山麓に眠る父を呼ぶ声木霊する慰霊巡拝  
富山市 酒井 映子  
富山市 酒井 映子  
時季はずれ島に咲く花南洋の桜見せくれし亡父のやさしき  
アンガウルの島影望み拝礼すこべリユーのオムル  
ウム岬 石岡市 小山 満江  
亡き父の戦地に立ちて無念の想い小石拾いしルソンの  
山なみ 焼津市 村松 洋一

十二月二十三日は平成最後の天皇誕生日です。宮中での祝賀の行事や一般参賀も行われます。昭和二十三年に「国民の祝日に関する法律」が制定される以前は天長節と称し、学校では式があり次の祝歌を歌い奏きました。  
「今日の吉き日は、大君のうまれたまひし 吉き日なり 今日吉き日は、みひかりのさしたまひし 吉き日なり ひかり遍き君が代を 祝へ諸人もろともに恵み遍き君が代を 祝え諸人もろとも」  
平成の御代を顧みて、謹んでお祝い申し上げます。  
(選者)

遺留品の返還式が行われた。十月十一日、山口県護国神社で返還式があり、市来健之助本会副会長（山口県遺族連盟会長）も出席し、遺留品が正則さんに返還された。返還された遺留品は健康状態や性格などが記された考課表や図面の教科書、小説など七点で、市来会長は「日章旗ではなく書類が戻ってくるのは珍しい。考課表を読むと国のために尽くしたことが推し量られる」と話した。



旅が、  
未来の  
わたしを  
つくる。

www.tobutoptours.co.jp

スリリングだったり、とてつもなくダイナミックだったり、  
思いもよらぬ出逢いがあったり、  
かけがえのない何にも勝る感動と遭遇したり、  
そんな旅のひとつひとつが、  
あなたの心を育て、あなたの未来を素敵に変える  
きっかけになりますように・・・  
新しいたび、私たちは真剣にプレゼンします。

**東武トップツアーズ**  
TOBU TOP TOURS

東京法人東事業部 第4営業部 担当：櫻井・高橋  
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 2-10-5  
住友生命茅場町ビル 2階  
TEL.03-6667-0534 FAX.03-6667-0564